

エコチル調査だより

エコチル調査だよりは、「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」の研究成果や進捗状況を参加者のみなさまへお知らせする情報紙です。

研究成果①

エコチル調査データと国の統計情報を比較しました

エコチル調査の成果を子ども達が健やかに育つ環境の実現につなげるためには、全国15地域で実施しているエコチル調査の結果を日本全国にあてはめて考えることができるか、確かめておく必要があります。そこで、エコチル調査データと国の統計情報を比較してみました。

まず、エコチル調査の妊娠中から出産1か月までの情報をまとめたデータセットを使い、お母さんとお子さんの基礎情報を集計しました。その集計

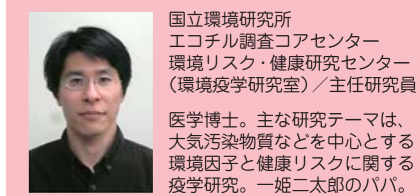
値を、厚生労働省が実施している人口動態調査（出生等に関する全数調査）に基づいて作成された人口動態統計と比較しました。

下図をご覧ください。20代での出産がエコチル調査では36.6%、人口動態統計では36.3%とほとんど変わらず、30代での出産は57.8%で一致していました。またお子さんの性別についても、男児51.2%、女児48.8%と一致していました。単胎出生児における低出生体重児（2,500g未満）割合も同

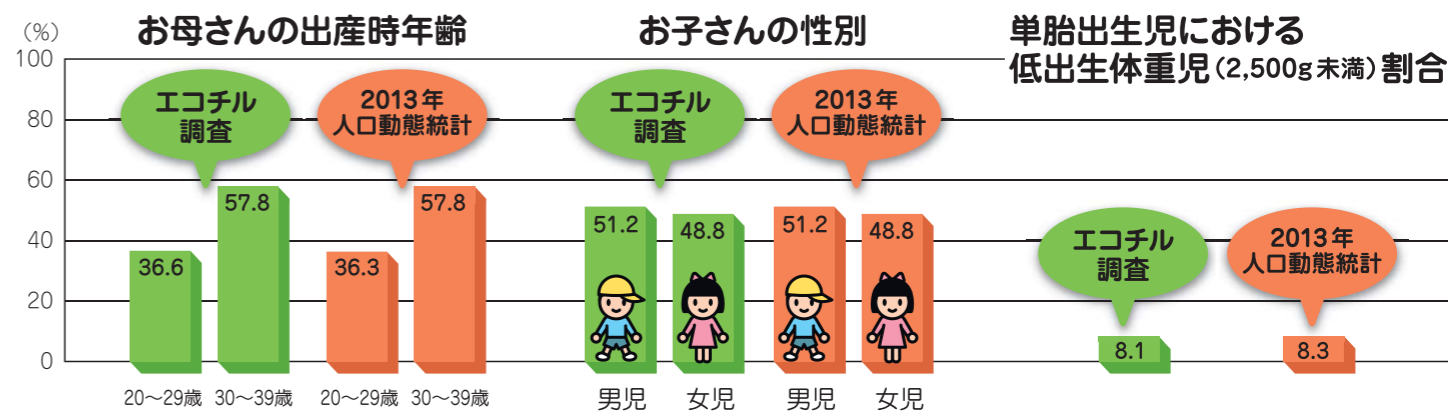
じょうでした（エコチル調査では8.1%、人口動態統計では8.3%）。

この結果は、エコチル調査データが日本の出産状況を反映した非常に重要な調査データであることを示しています。これも多くのお母さん、お父さんに調査の趣旨にご賛同いただき参加登録をいただいたことによると思われます。引き続きご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

道川 武紘（みちがわ たけひろ）



国立環境研究所
エコチル調査コアセンター
環境リスク・健康研究センター
（環境疫学研究室）主任研究員
医学博士。主な研究テーマは、大気汚染物質などを中心とする環境因子と健康リスクに関する疫学研究。一姫二太郎のパパ。



就学期以降の質問票調査について

エコチル調査の就学期以降の質問票調査は、これまで同様年2回の実施を予定しておりますが、実施時期が以下の2回に変わります。

- 毎年お子さんの生まれ月にお届けする質問票（これまでの質問票と同様）
- 毎年秋から冬頃に実施する質問票（主に学校生活が影響すると思われる内容に関する質問からなる学年単位の質問票）

※お子さんの生まれ月の半年後にお送りしていた質問票はなくなります。

お子さんの生まれ月によって質問票のお届けの順番は異なります。

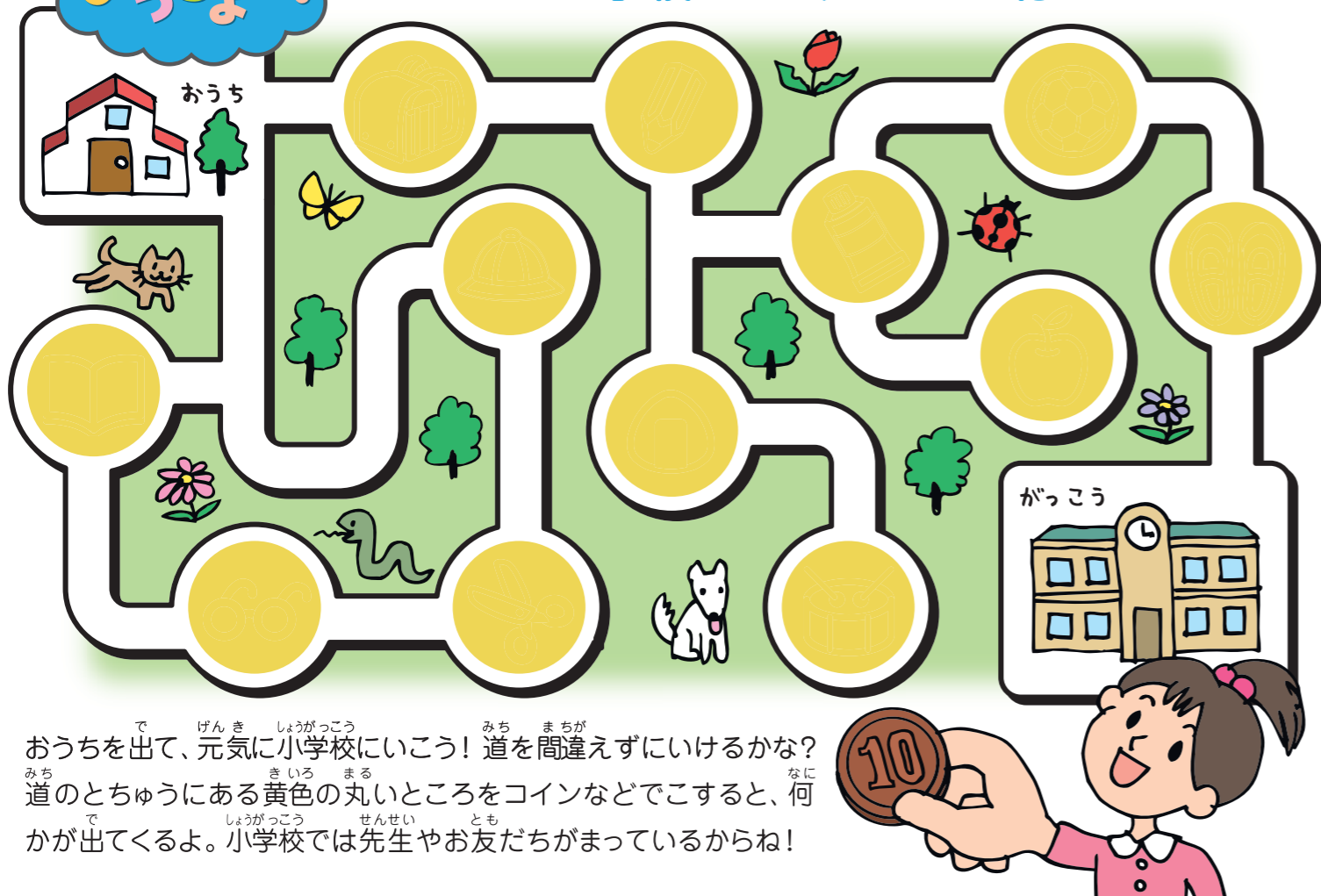
また、お誕生日が秋頃のお子さんの場合には同じ時期に二つの質問票調査のご案内が届きますが、両方の質問票にご回答をお願い致します。

おたのしみ スクラッチつき めいろ



キミも
いっしょに!

おうちから学校まで、迷わずに行けるかな？



おうちを出て、元気に小学校にいこう！道を間違えずにいけるかな？道のとちゅうにある黄色の丸いところをコインなどでこすると、何かが出てくるよ。小学校では先生やお友だちがまっているからね！

コアセンターからのお知らせ

学童期の調査方法が変更になります

エコチル調査にご参加いただいた際に皆様にお渡しした説明書に、「エコチル調査全体のスケジュール」をお示しており、その中に6歳と12歳の時には、質問票調査の他、小児科診察、身体計測（身長・体重等）、子どもの採尿などを実施することを記載しておりました。現在、具体的な実施方法について検討しておりますが、6歳では実施せず、8歳での実施を念頭に具体的な調査内容について検討しております。調査時期・内容の詳細が決まりましたら、あらためてお知らせいたします。ご理解をいただけますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

血液中の金属類の分析結果報告が始まります

妊娠中に採取させていただきました血液中の金属類（水銀、カドミウム、鉛、セレン、マンガン）の測定結果がまとまりましたので、4月以降順次返却を開始いたします。約10万件という膨大な試料のため、分析に時間がかかったこととお詫びいたします。約10万人のお母様に分析結果を返却する予定で準備を進めておりますが、先行して分析が終了した約2万人のお母様から返却を開始いたします。なお分析をする順番は、参加いただいた順番とは異なりますので、報告が届く時期が前後することをご了承ください。ご理解をいただけますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

※参加者のみなさまへのお願い

住所が変わった時は、担当のユニットセンターに新しい住所をお知らせください

転居先が調査対象地域外であっても、質問調査票へのご協力など、可能な範囲でご協力のほどお願いいたします。変更があった際は、質問票調査に同封している「登録内容変更届」に新住所をご記入の上、質問票とともにご返信ください。または、担当のユニットセンターにお電話ください。

質問票調査にご協力ください

みなさまにお答えいただく質問票は、今後の調査、研究にとって非常に貴重なデータとなります。ちょっと答えにくかったり、時間がかかってしまう時もあるかと思いますが、質問票への回答、返却にご協力いただけますようお願いいたします。

お問合せ エコチル調査コールセンター

0120-53-5252

9:00 ~ 22:00 (フリーダイヤル・年中無休)

発行

子どもの健康と環境に関する全国調査
(エコチル調査) コアセンター

〒305-8506 茨城県つくば市小野川16-2 国立研究開発法人国立環境研究所



小学校に慣れるって
どういうこと？

親と教師は子育てのパートナー どんなことでも学校に相談してください。

大字弘一郎 (おおじ こういちろう)先生

世田谷区立山野小学校 校長
葛飾区教育委員会指導主事 (担当教科: 体育科)、
渋谷区立本町小学校副校長、渋谷区教育委員会指
導室長などを経て、平成 27 年より現職。



小学校入学に向けて、子どもたちはもちろん、お父さん、お母さんも不安と期待を感じています。勉強のこと、集団生活のことなど、幼児期から学童期に特徴的な不安の数々について、大字弘一郎校長先生にお話を伺いました。

幼い我が子、小学校のクラスの中でうまく馴染めるかどうか不安です。

多くのお母さんたちは同じような不安を感じています。私は長い間小学校に入学してきた子どもたちをみてきましたが、ほとんどの子どもは大丈夫です。入学直後はとても緊張していても、3日すると学校のリズムや先生のこと、友だちの様子などが分かってきてリラックスしています。

入学前に文字の読み書きができるようにしたほうがいいですか。

読み書き足し算までできる子もいれば、まるで書けない子もいて、みんなバラバラのレベルで入学してきます。それでもみんな同じようにひらがなから勉強していきますから、焦って入学前に勉強させる必要はありません。もともと字が書ける子でも、きれいに書けるようにとか、この字を使った言葉を覚えようなど、新しいことをたくさん学ぶので退屈することなどありません。ただ、自分の下駄箱や持ち物がわかるように、名前は読めるようにしておいたほうがいいですね。

入学後、親としてどのように子どもをサポートすればいいでしょうか。

今は働いているお母さんも多いので、あくまでも自分の持っている時間の中でお子さんと向き合ってください。一緒に時間が取れないなら交換日記などでもいいですね。時間は短くても、子どもが「私の話を聞いてくれた」と思えるような関わりができるといいと思います。そして、いつまでも子ども扱いしないこと。持ち物の準備など親が先回りしてやりたくなりますが、それでは

いつまで経っても子どもが自分でできるようになりません。手を出さずに見守ってあげてほしいのです。

入学までに身につけておいたほうがいいことはありますか。

生活習慣はとても大切です。最近、自分の体の状態を言葉にして言えない子が多く、「気持ち悪い」と保健室に来たのでよくよく聞くと朝食を食べていなかったりします。早寝・早起き・朝ごはん、この3つを守るとよいでしょう。

学校や先生とはどのように関わっていけばいいでしょうか。

数年前から、入学前にそうした不安を相談しに来てくれる保護者の方も増えました。それは私たち教師にとって、とてもありがたいことです。発達障害などを心配されている方もいますが、軽度な障害をもつ児童に対して特別な指導を行う通級指導教室というクラスがあり、専門教員が対応してくれます。早い時期に相談してもらえば、クラス分けや担任決めの参考にもなりますし、どんな些細なことでも相談してください。

それは入学してからと同じです。教師と親は子育てのパートナーなので、子どものことは一緒に考えていきましょう。「こんな些細なこと」と思うようなことほど大事で、そこを見過ごしてしまうことで大きなトラブルに発展することも少なくありません。子どものために、どんなことでも相談してください。

研究成果②

アレルギー疾患がある お父さん・お母さんが多いことが判明

エコチル調査では、化学物質を含む環境要因が子どものアレルギーにどのような影響を与えるかを調べることも大事なテーマの一つとなっています。

子どものアレルギーの発症には、様々な要因がかかわっていますが、遺伝的な要因も強くかかわっています。お父さんやお母さんにアトピー性皮膚炎があるとそのお子さんがアトピー性皮膚炎になるリスクも高くなることがわかっています。このように、お子さんのアレルギーを評価するには、お父さんとお母さんのアレルギーについて把握することが必要です。

そこで、私たちは、エコチル調査に参加していただいたお父さんとお母

さんのアレルギーについて調べてみました。何らかのアレルギー疾患と診断されたことがあるお父さんは42.8%、お母さんは50.9%でしたので、エコチル調査に参加しているお子さんの多くはアレルギー素因をもっていると考えられました。

また、今までにアトピー性皮膚炎になったことがあるお父さんの割合は11.2%、お母さんの割合は15.7%だったことがわかりました。アレルギー性鼻炎(花粉症)については、お父さんの割合は30.3%、お母さんの割合は36.0%であり、アレルギー性鼻炎(花粉症)になる方がとても多いこともわかりました。

大規模な全国調査によるお父さんやお母さん世代のアレルギーの実態

については、わが国から初めての報告となり、国際学術雑誌で発表しました。エコチル調査は世界的にも大変注目されています。

今後は、お子さんのアレルギー発症に影響を与える要因についてさらに詳しく調べることにより、少しでもお子さんのアレルギー発症を減らしていけるような提言がエコチル調査の結果からできればと思います。

山本貴和子 (やまもと きわこ)

エコチル調査
メディカルサポートセンター
国立成育医療研究センター
アレルギー科 医師研究員
医学博士・小児科専門医・アレルギー専門医。主な研究テーマは、小児アレルギー疾患の発症要因や予防方法に関する研究。男児二人のママ。



何らかのアレルギー疾患と診断された割合

